

2009年6月23日

各 位

**ホソカワミクロン株式会社**

代表取締役 宮田 清巳

東証・大証 1部(コード6277)

連絡先: 広報・IR室 荒川 隆

電話 : 072-855-2226

FAX : 072-855-5197

**サメ由来の化粧品用高濃度・高品質コラーゲンの開発と販売開始のお知らせ**

当社の国内研究開発子会社株式会社ホソカワ粉体技術研究所(社長:野城清、大阪府枚方市)は、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の助成事業による「サメの高付加価値化に関する研究開発」に関する東京農工大学野村義宏准教授および株式会社中華・高橋との共同研究において、ホソカワミクロングループの高度な粉体技術を活用し、高濃度でありながら化粧品用に適した、無色透明で匂いも感じられないコラーゲン(HCOS)を得ることに成功いたしました。

また、このコラーゲンは、上記野村准教授によって【シワ形成の改善効果】があることが確認されています。

ホソカワ粉体技術研究所は、これまでにない高濃度・高品質コラーゲンの製造技術を確立できたことから、海洋性コラーゲンを基本素材とした化粧品の製造を目指している化粧品メーカーを中心に販売活動を進めていくとともに需要が増伸している健康/美容食品用原料としての展開も目指しています。

本製品は3月下旬から試験販売を開始しておりますが、来る7月1日～3日に東京ビッグサイトで開催される『第9回国際バイオ EXPO』において、その品質の高さを広くPRする予定です。

◆コラーゲンとは

コラーゲンは、人のからだを構成する主要成分である蛋白質の1/3を占め、肌、骨、関節、血管などに多く存在しています。特に、肌の“潤い”を保つ重要な役割を担っています。

- 一般的に肌の構造に近い3重螺旋構造を持っており、高い保湿性があります。
- 皮膚の繊維構造に近く、保湿性に優れたコラーゲンを水溶性コラーゲンと呼びます。
- 他成分との相溶性を向上させるために水溶性コラーゲンに化学修飾させたサクシニルアテロコラーゲンも利用されています。
- 水溶性コラーゲンの螺旋構造が崩れたものがゼラチンで、このゼラチンを細かく(低分子化)するとペプチドとなり、これを加水分解コラーゲン(コラーゲンペプチド)と呼びます。

◆求められるコラーゲン

- 年齢と共に皮膚中のコラーゲンが減少して皮膚の水分も低下してしまうことから、天然由来

で保湿性の高い、3重螺旋構造を持った水溶性コラーゲンが求められています。

- 従来は牛や豚などの陸上動物から製造されてきましたが、BSE や豚インフルエンザ等の影響もあって、海洋性コラーゲンが求められるようになってきました。
- コラーゲンは、熱安定性、匂い、感触、粘性など、その原料が持つ特性が強くなる傾向がありますが、化粧品や食品として用いるためには、匂いがなく、無色透明でかつ高い濃度のコラーゲンが求められます。

#### ◆ホソカワのコラーゲンの特徴

- サメのゼロエミッションを目指す東京農工大野村准教授が開発した基礎技術をベースに、国内最大のフカヒレメーカーである株式会社中華・高橋が選定、原料加工を施したサメを原料として、ホソカワミクロングループの低温粉碎、抽出、透析、脱臭、微粒子除去などの高度な粉体技術を組み合わせた独自のコラーゲン抽出法で製造しました。
- 水溶性コラーゲンのアレルギーの原因といわれるテロペプチドを切断・除去し、保湿性が高く、より安全性を高くしています。
- 無色透明で匂いも感じられず、かつ高濃度のコラーゲンですから、化粧品用に適しています。
- 海洋性コラーゲンの中でもサメ由来のものは、変性温度が高く、取り扱いが容易です。
- 水溶性コラーゲン、サクシニルアテロコラーゲンともに高い粘性をもち(従来品比約 20%増)、従来にない肌感触が体感できます。
- 従来品のほとんどが、コラーゲン濃度1%以下ですが、当社品の水溶性コラーゲンおよびサクシニルアテロコラーゲンは標準濃度を1%としています。また、加水分解コラーゲンは標準濃度2%を予定していますが、標準濃度以上の高濃度化も対応可能です。
- 加水分解コラーゲンは、分子量 1,000 以下まで微細化したコラーゲンペプチドで、肌に浸透していくようなサラっとした感触を持っていますので、他成分との併用で付加価値を生み出すことができます。
- 当社のコラーゲン「HCOS」は、東京農工大学野村准教授によって「光老化皮膚状態の改善傾向(シワ形成が改善)が確認」されています。

以上



『ホソカワの無色透明無臭高濃度(1.5%)の水溶性コラーゲン HCOS-A』